

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第13回 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 議事録

1. 日時 2009年11月24日(金) 13:30~15:40

2. 場所 日本原子力技術協会 NOF 芝ビル7階A・B会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 開始時

川上(主査), 岩崎(副主査)(15:20退席), 片寄(幹事), 高橋, 森本,
亀尾, 見上, 黒澤, 中田, 田中, 七田, 山田, 市毛, 佐々木, 宿谷, 中山,
柏木(17名)

途中出席

駒月(渡邊代理)(14:30~出席)(1名)

(欠席委員) 福村(1名)

(常時参加者) 開始時

大間, 林, 大内(武部代理), 三宅, 山田, 三根, 浅野, 尾崎, 中野, 中
瀬, 飯田, 小林, 石屋(13名)

(常時参加者候補) 本山, 北島(2名)

(欠席常時参加者) 石川, 杉山, 向原, 能浦, 野村(5名)

(傍聴) 吉田, 徳原, 杉山(3名)

(事務局) 谷井

4. 配布資料

F10Ph2SC13-1 第13回 LLW 放射能評価分科会議事録(案)

F10Ph2SC13-2-1 原子燃料サイクル専門部会活動状況

F10Ph2SC13-2-2 標準委員会の活動状況

F10Ph2SC12-3 人事について

F10Ph2SC13-4-1 「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順」(案)
に対する原子燃料サイクル専門部会 書面投票コメント対応案

F10Ph2SC13-4-2 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順案の主な
改定箇所について

F10Ph2SC13-4-3 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順標準本体/
附属書/解説案

F10Ph2SC13-5 「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基
本的手順」の標準化の進め方について(案)

- F10Ph2SC13-6 分科会の今後の予定について
- F10Ph2SC13-参考-1 第39回原子燃料サイクル専門部会“余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順(案)”“本報告審議結果
- F10Ph2SC13-参考-2 【本報告】「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順」(案)(A3版)
- F10Ph2SC13-参考-3 本報告(概要)(OHP版)
- F10Ph2SC13-参考-4 低レベル放射性廃棄物の放射能濃度決定方法の標準化について

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、開始時点で委員19名中、代理委員を含めて17名の出席があり、決議に必要な委員数(13名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録案の確認(F10Ph2SC13-1)

事務局より、前回議事録案について、事務局より事前に配布したものから変更は無い旨説明があり、承認された。

(3) 原子燃料サイクル専門部会の活動状況(F10Ph2SC13-2-1)

事務局より、原子燃料サイクル専門部会の活動状況について報告された。

(4) 標準委員会の活動状況(F10Ph2SC13-2-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について報告された。

(5) 人事について(F10Ph2SC12-3)

承認

常時登録参加者登録

事務局より、北島 英明氏(原技協)及び本山 光志氏(日揮(株))が常時参加者登録を希望されている旨紹介され、決議した結果、常時登録参加者として登録された。

(6) 原子燃料サイクル専門部会書面投票コメント対応案及び標準本体/附属書/解説案(修正版)について(F10Ph2SC13-4-1, 3-4-2, 13-4-3, 13-参考-1, 13-参考-2, 13-参考-3)

片寄幹事より、F10Ph2SC13-4-1, 3-4-2, 13-4-3, 13-参考-1, 13-参考-2, 13-参考-3に従い、第39回原子燃料サイクル専門部会における書面投票の結果(コメント)への対応案、及び当該対応案を踏まえた標準本体/附属書/解説案の修正内容について説明があり、以下の議論を踏まえて、概ねに了承された。

なお、F10Ph2SC13-4-1, 3-4-2, 13-4-3, 13-参考-1 については、下記の修正を行った上で、原子燃料サイクル専門部会（12月3日予定）に、本報告修正版として再度報告することで了承された。

- “・・・放射化計算プログラム（以下、放射化コードという。）に内蔵されている放射化断面積ライブラリから・・・” については、必ずしも内蔵されているものではないことから “・・・放射化計算プログラム（以下、放射化コードという。）に内蔵若しくは付属されている放射化断面積ライブラリから・・・” に修正する。（標準本体 P. 4/5. 2. 1a) 2) 2-2))
- 核種分析値の誤差については、誤差の要因が種々あることから、今回追記した内容に対して誤解されないよう計数における統計誤差であることを注記すること。（附属書 C P. 67, P. 73, P. 80）
- “・・・特徴をもつ。さらに、解体時に限ってのことではないが、放射化金属等の・・・” については、今回追記した内容では分かりにくいため、“・・・特徴をもつ。＜改行＞なお、放射化金属等の・・・” に修正する。（標準解説 P. 193/解説 2a)）
- “上記 6 種類の放射能濃度決定方法は、・・・” については、現状のままとするのは分かりにくいため、明確に “上記 6 種類のうち理論計算法を除く 5 種類の放射能濃度決定方法は、・・・” と修正する。（標準解説 P. 195/解説 4. 1）
- F10Ph2SC13-参考-2 と F10Ph2SC13-参考-3 について、資料内の検討工程の第 13 回分科会の実施内容については、整合を図ること。
- 図中で凡例を色別による方法のみで判別している箇所については、最終的に発行される標準が白黒印刷のため、適宜表示方法等を考慮する必要がある。
- 附属書 C の核種分析値と放射化計算結果は、良好に一致する例のみを記載している。参考例を記載していることは理解できるが、読者に誤解を与えないか懸念もある。→附属書 C は核種分析値と放射化計算結果が “一致する” 例を示すことが目的であるためこのような記載となっているが、将来の標準改訂時にデータの蓄積や検討が進めば、適宜、反映していきたい。

(7) ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の標準化の進め方について (F10Ph2SC13-5)

北島常時参加者より、F10Ph2SC13-5 に従い、ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の標準化の進め方について説明があり、次のコメントも考慮しつつ、今後、1 年程度を目途に検討（中間報告）を進めていくことが了承された。

- 放射化計算で放射能濃度を決定する廃棄物には、BWR の主蒸気系周りにおける N-17 による放射化も考慮しておく必要がある。

(8) 分科会の今後の予定について(F10Ph2SC13-6)

片寄幹事より、F10Ph2SC12-6に従い、今後の予定について説明があり、次回分科会については、2009年1月下旬頃から1回/2月の頻度でピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の検討を行う予定である旨、説明があった。

なお、余裕深度処分対象廃棄物の標準委員会等での審議状況についても、適宜、議題に加える旨、合わせて説明があった。

6. 次回の予定について

次回分科会は、専門部会、標準委員会への報告状況を踏まえ、追って連絡することとした。

以 上